

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191200106		
法人名	社会福祉法人 野菊の里		
事業所名	グループホームのぎく「かがやきの里」かみみね		
所在地	佐賀県三養基郡上峰町大字前牟田1896番地		
自己評価作成日	平成29年8月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成29年9月20日	外部評価確定日	平成29年10月13日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「かけがえのない人生を、生きがいをもって幸せに生きること」を意識して介護をさせていただいています。入居者様の状態に合わせ、本人や家族と相談のうえにプランの作成をおこなっています。今年度から2階のユニットが再開しました。1階は歌や塗り絵、体操等のレクリエーションに力を入れ、2階は身体能力の維持、増進のためのリハビリに力をいれています。週に1回作業療法士がこられ評価をおこなっています。医療面では常勤看護師が健康管理を行い、異常の早期発見や早期対応、医療的な処置も行っています。また在宅総合診療体制も整えているので医師との連携も行っており、緊急時も対応できるようにしています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

開設4年目を迎え、全職員がチームワークで、理念の実現を目指してあくまでも利用者主体の支援を実践している事業所である。周りの田園風景は、利用者に季節の移り変わりを感じさせ、心の安らぎにもなっている。室内は明るく静かで清潔感にあふれている。広い廊下の両側に居室が配置された構造で、夜間でも職員が利用者や居室の様子を十分に察知し、支援に動けるようになっている。各居室の入口には、ノート(日記帳)が備えられており、毎日の様子や写真等が記録されていて、家族と絆を深める一つの工夫でもある。一日の基本的な流れはあるが、利用者は自分なりのリズムで一日を暮している。食事やおやつ時間は職員の呼びかけが無くてもリビングに自然に集まり、楽しいひとときを過ごしている。花見、紅葉狩り、七夕、そうめん流し、母の日、バースデイ、その他色々な期間イベントも行われている。尊厳を大事にした支援に、利用者や家族は「大丈夫です！認知症でも社会の中で自分らしく暮せます」「認知症ケアのプロによる、安心して専門的なケアが受けられます」を実感している。家族や知り合いが気安く訪問しやすい雰囲気のある事業所でもある。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「かけがえのない人生をいきがいをもって幸せに生きること」の理念の基に実践を行っている。	「かけがえのない人生をいきがいをもって幸せに生きること」の理念の基に実践を行っている。	各職員が携帯している名前札の裏に理念が印刷されており、何時も目に付くようにしている。また、職員も出入りする玄関ホールにも理念が見やすく掲げてある。職員は理念を共有意識しながら日常の支援に臨んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り・慰問等の交流はあるが、日常的には行っていない。	夏祭り・慰問等の交流はあるが、日常的には行っていない。	夏祭りには地域からも多くの住民が見えて、利用者や家族、職員との交流も楽しんでいる。近所の方やボランティアの訪問もある。避難訓練時は地元の協力も得ている。しかし、事業所自身から積極的に地域とのつきあいや地域貢献を図っているとはいえない。	現在地に事業所を開設してから4年目でもあり、地元自治会、区長、運営推進会議での知恵を借りながらも、地域との交流の在り方についての具体的な再検討を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来ていない。	出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。頂いた意見」を参考に修正、改善を行っている	2ヶ月に2回開催している。頂いた意見」を参考に修正、改善を行っている	年に6回の開催で、利用者状況、行事、研修、今後の予定等の報告が行われている。各委員から質疑や意見も出され、事故やヒヤリハット対策、誤薬や未薬を防ぐための研修、勤務体制を工夫しての外食実施等運営に活かされている事例は多い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な訪問やケア会議等を利用して、協力体制を密に取れるようにしている。	定期的な訪問やケア会議等を利用して、協力体制を密に取れるようにしている。	町の福祉関係の部署や地域包括支援センター、広域介護事務所にも必要に応じて出向している。事業所の実情、課題、生活擁護に関する事、最新の情報を得るなどの努力が払われている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止については十分理解している。玄関の施錠を含め身体拘束は行っていない。	身体拘束禁止については十分理解している。玄関の施錠を含め身体拘束は行っていない。	身体拘束のないケアを実践していることを利用開始にあたって説明している。研修等を通して全職員が拘束のないケアについての認識は高い。これまで身体拘束の事例は無い。言葉等による心の拘束も無いように留意しながらの支援である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待アンケートや不適切ケア報告書の活用等、法人全体で取り組んでいる。	虐待アンケートや不適切ケア報告書の活用等、法人全体で取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や地域ケア会議に参加し学ぶ機会を作っている。	研修や地域ケア会議に参加し学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は十分に行い、納得されるまで説明している。質問にも丁寧にわかりやすく答えている。	説明は十分に行い、納得されるまで説明している。質問にも丁寧にわかりやすく答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時を利用して、日頃の状態報告を行い良好な関係を築くようにし、意見を出しやすい雰囲気作りに努めている。	面会時を利用して、日頃の状態報告を行い良好な関係を築くようにし、意見を出しやすい雰囲気作りに努めている。	要望BOX設置、苦情や相談専用窓口明示がある。面会時における職員の笑顔と明るい声かけは、家族に訪問のしやすさを感じさせている。柔軟な一日の流れの工夫、リハビリの要望に応える等は運営に活かされた一例である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を聞いた後、必要であれば管理者や施設長と相談し、意見が反映できるようにしている。	職員の意見を聞いた後、必要であれば管理者や施設長と相談し、意見が反映できるようにしている。	管理者は毎月の定例会議、または随時、職員からの意見や要望を聴いている。利用者に関すること、行事や勤務体制等の全体的な運営に関わること等様々である。主任、副主任を設け、意思の疎通の良さが図られている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境作り、職員が意見をだしやすい職場の雰囲気作りに向けて取り組んでいる。	働きやすい環境作り、職員が意見をだしやすい職場の雰囲気作りに向けて取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や研修に参加し、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	勉強会や研修に参加し、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会、上峰地域ケア会議、施設ケアマネネットワーク会議(みやき町包括主催)等、交流の機会を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいる。	GH連絡協議会、上峰地域ケア会議、施設ケアマネネットワーク会議(みやき町包括主催)等、交流の機会を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とよく話し合い、信頼関係の構築に努め、要望や意向に沿えるよう支援を行っている。	本人とよく話し合い、信頼関係の構築に努め、要望や意向に沿えるよう支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見・意向を聞き取り、十分な話し合いやこまめな連絡にて相談しやすい関係づくりに努めている。	家族の意見・意向を聞き取り、十分な話し合いやこまめな連絡にて相談しやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の意向・家族の意向を中心として、情報収集・アセスメントし、担当者会議を開催し、対応に努めている。	本人の意向・家族の意向を中心として、情報収集・アセスメントし、担当者会議を開催し、対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共同生活の場」を基に、見極めの中、過剰な介助や押し付けにならないように、気をつけ関係を築いている。	「共同生活の場」を基に、見極めの中、過剰な介助や押し付けにならないように、気をつけ関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族負担を軽減し、家族と本人の絆を大切にしながら、家族と共に本人を支えていく関係性を築いている。	家族負担を軽減し、家族と本人の絆を大切にしながら、家族と共に本人を支えていく関係性を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の面会が時々あっている。面会しやすい雰囲気作りにも努めている。	本人の意向を大切に、地域の方の面会もこられている。	買い物と一緒に出かけお菓子や服を選んだり、町の図書館と一緒に出かけたりしている。電話や手紙を希望する利用者にはその支援がなされている。かつての同僚や知人の訪問も働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性や関係性を把握し、孤独感を感じないような交流しやすい場の提供し、利用者同士の関わり合いが多くできるように支援を行っている。時々席替えを行い交流の場を増やしている。	相性や関係性を把握し、孤独感を感じないような交流しやすい場の提供し、利用者同士の関わり合いが多くできるように支援を行っている。時々席替えを行い交流の場を増やしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの問い合わせがあったときは相談に応じている。	家族からの問い合わせがあったときは相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の意向に沿った支援を行っている。日頃より担当者が傾聴に努めている。毎月カンファレンスを行っているが、事前にアンケートをとり希望を聞いている。ユニット職員全員でよりよい介護が出切る様検討している。	個々の意向に沿った支援を行っている。日頃より担当者が傾聴に努めている。毎月カンファレンスを行っているが、事前にアンケートをとり希望を聞いている。ユニット職員全員でよりよい介護が出切る様検討している。	日々の関わりの中で、一人ひとりに寄り添いながらの把握である。日常の会話、つぶやき、ちょっとした表情の変化などあらゆる場面で利用者の心を察している。聴きとりによる毎月のアンケート結果を含めて、本人の要望や意思が実現できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設ケアマネジャーによって情報収集をし全職員(他職種含む)への情報提供を行い、情報の共有を行っている。	施設ケアマネジャーによって情報収集をし全職員(他職種含む)への情報提供を行い、情報の共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の生活支援を通じ、心身状態や現状把握を行い、維持増進に向けた支援に取り組んでいる。(担当者会議やカンファレンス時だけでなく、気づきや案を出している)	日頃の生活支援を通じ、心身状態や現状把握を行い、維持増進に向けた支援に取り組んでいる。(担当者会議やカンファレンス時だけでなく、気づきや案を出している)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成は規程通り、担当者会議・前回プラン評価を経て作成に当たっているが、更にユニットカンファにおいても、利用者個々の課題とケアについて意見を出し合い、介護計画を作成している。	ケアプラン作成は規程通り、担当者会議・前回プラン評価を経て作成に当たっているが、更にユニットカンファにおいても、利用者個々の課題とケアについて意見を出し合い、介護計画を作成している。	綿密なアセスメントシートが準備され、具体的で実現可能な利用者本位の介護サービス計画書が作成されている。サービス担当者会議で検討した内容は、全職員で共有されている。評価、計画の見直しも定期的、または随時に柔軟に実施されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子(24時間)をケース記録に記入し、職員間で情報の共有をおこなっている。また、申し送りとして口頭の引き継ぎも行っている。別に健康管理記録表を使用し、健康面で状態把握できるようにしている。	日々の様子(24時間)をケース記録に記入し、職員間で情報の共有をおこなっている。また、申し送りとして口頭の引き継ぎも行っている。別に健康管理記録表を使用し、健康面で状態把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況変化に合わせて、都度検討し可能な限り、多機能化に取り組んでいる。	その時々状況変化に合わせて、都度検討し可能な限り、多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館利用や買い物等、地域資源に対し、職員一緒に行動している。	図書館利用や買い物等、地域資源に対し、職員一緒に行動している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	在宅総合診療(在総診)や往診を利用 し、適切な医療の提供を受けられ るようにしている。	在宅総合診療(在総診)や往診を利用 し、適切な医療の提供を受けられ るようにしている。	利用者や家族が希望する医療機関 での受診であり、家族の協力も得て いる。協力医療機関とは何時でも相 談や受診ができる関係にある。在宅 総合診療や往診はそれぞれ、月に 2回の支援である。歯科は、毎週訪 問歯科での受診を支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪 問看護師等に伝えて相談し、個々の利用 者が適切な受診や看護を受けられるよう に支援している	利用者の日々の状態観察を行い、 状態変化あれば看護師に報告し対 処している。必要時は主治医に相談 し受診や訪問看護を利用している。	利用者の日々の状態観察を行い、 状態変化あれば看護師に報告し対 処している。必要時は主治医に相談 し受診や訪問看護を利用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院できる ように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。又は、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とは情報交換を行っている。 特に地域医療連携室とは、密に 関係づくりを行っている。ときどき面 会に行き病棟看護師から情報収集 もしている。	医療機関とは情報交換を行っている。 特に地域医療連携室とは、密に 関係づくりを行っている。ときどき面 会に行き病棟看護師から情報収集 もしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	家族とは入居契約時に重度化した 場合の指針の説明を行っている	家族とは入居契約時に重度化した 場合の指針の説明を行っている	事業所としてできること、できないこ とを含めて、契約時に本人と家族に 納得のいく話し合いが行われてい る。現在、看取り介護は行われてい ないが、具体的な指針の検討や診 療、人材をあたっている段階であ る。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全 ての職員は応急手当や初期対応の訓練 を定期的に行い、実践力を身に付けてい る	急変時の対応についての併設施設 の勉強会や心肺蘇生、AEDの使い 方の訓練に参加し、実践力を身に 付けている。	急変時の対応についての併設施設 の勉強会や心肺蘇生、AEDの使い 方の訓練に参加し、実践力を身に 付けている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練時には、特別養護老人ホーム野菊の里職員や区長さんと連携を図り、緊急時早期行動ができるように努めている。	火災訓練時には、特別養護老人ホーム野菊の里職員や区長さんと連携を図り、緊急時早期行動ができるように努めている。	消防計画に基づき、消防署の指導を受けながら、年2回の避難訓練が実施されている。夜間の火災を想定し、隣接施設や消防団、区長、地域住民の協力を得ながらの避難訓練である。自然災害を想定しての訓練は行われていない。非常食、飲料水は法人で備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格に合わせた声こえかけや介護を行っている。プライバシーに関しても他の人の前では個人情報をつかり言わないように注意をしている。	一人ひとりの性格に合わせた声こえかけや介護を行っている。プライバシーに関しても他の人の前では個人情報をつかり言わないように注意をしている。	利用者の尊厳を大事にすることを支援の基本にしている。生活歴や誇り、人となりや個性を把握し、一人ひとりを尊重した支援である。接遇や言葉かけにその姿を見受けることが出来た。個人情報はきちんと管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話では、傾聴を中心に開かれた質問で対応している。また、本人が訴えやすい環境づくりにも心がけている。	日常会話では、傾聴を中心に開かれた質問で対応している。また、本人が訴えやすい環境づくりにも心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の利用者のペースに合わせ、出来るだけ出来ることはしていただいている。	個々の利用者のペースに合わせ、出来るだけ出来ることはしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服・靴下まで利用者を選んでいただいたり、訪問カット時も仕上がりの希望を尋ねたり、日頃より、利用者個々への支援に努めている。	着たい服・靴下まで利用者を選んでいただいたり、訪問カット時も仕上がりの希望を尋ねたり、日頃より、利用者個々への支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の一人ひとりの好みやアレルギー・病歴を給食室に情報提供することでアナフィラキシーショックの予防や、嫌いなものを代替品で対応している。	利用者の一人ひとりの好みやアレルギー・病歴を給食室に情報提供することでアナフィラキシーショックの予防や、嫌いなものを代替品で対応している。	食卓の配置や座席に気が配られている。職員のそれとない支援や言葉かけを受けながらの食事で、利用者は自分なりのペースで食事を摂っている。副食は法人の厨房で調理したものであるが、ご飯や汁ものは台所で作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、健康管理表へ記載し、日々の食事摂取量・水分摂取量の把握を行い健康管理に努めている。	毎日、健康管理表へ記載し、日々の食事摂取量・水分摂取量の把握を行い健康管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は本人の能力に合わせた介助にて口腔衛生・口腔ケアの支援を行っている。	食後は本人の能力に合わせた介助にて口腔衛生・口腔ケアの支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、オムツからリハパン、リハパンからトイレ、トイレ自立に向けた支援へ努めている。	利用者の排泄パターンを把握し、オムツからリハパン、リハパンからトイレ、トイレ自立に向けた支援へ努めている。	排泄チェックシートや細かい観察などから排泄習慣やパターンが把握されており、一人ひとりその方に応じた支援がとられている。排泄自立の意欲を引き出す声かけや背もたれのあるトイレ用器を使用する等の工夫もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	給食室(管理栄養士)による食事・おやつ提供。施設全体で栄養バランスや栄養価に配慮されている。医師・看護師の指示の下、排便管理を行い便秘にならないように努めている。	給食室(管理栄養士)による食事・おやつ提供。施設全体で栄養バランスや栄養価に配慮されている。医師・看護師の指示の下、排便管理を行い便秘にならないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本時間や曜日は決まっているが、希望されたり、失禁、失便で汚れてしまったときは随時入浴をおこなっている。	基本時間や曜日は決まっているが、希望されたり、失禁、失便で汚れてしまったときは随時入浴をおこなっている。	基本的には週3回の入浴日であるが、入浴の準備は毎日できており、希望する方はいつでも入浴できる。リフト入浴の設備が備えられており、約半数の方が安心感をもって、ゆっくりと入浴をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息を促したり、昼夜逆転しないように、日中の活動支援(レクリエーション)行ったり、必要時は医師に相談している。	毎日レクリエーションやリハビリ活動を行うことで昼夜逆転しないよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の名前・効能・効果・用法・用量の情報をすぐに閲覧できる場所に内服一覧表を保管している。	職員は薬の名前・効能・効果・用法・用量の情報をすぐに閲覧できる場所に内服一覧表を保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設行事(慰問での踊り・歌・ピアノ演奏・喫茶・お茶会等)参加支援、毎日のレクリエーション 趣味支援 施設リハビリ参加支援。利用者個々に対しての楽しみごと、気分転換図っている。	施設行事(慰問での踊り・歌・ピアノ演奏・喫茶・お茶会等)参加支援、毎日のレクリエーション 趣味支援 施設リハビリ参加支援。利用者個々に対しての楽しみごと、気分転換図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や友人へ「電話をかけたい」「家に帰りたい」「買い物に行きたい」と要望あれば、対応し、家族や職員と協力しながら支援行っている。	外出を希望されたときは人員配置やスケジュールを変更したりして対応を行っている。	ホーム周辺や広い敷地内を散歩したり、外気浴をすることが多い。車椅子使用の利用者も外に出て気分転換を図っている。花見やコスモス見学、紅葉狩りなどの機会もあり、利用者の要望に応える工夫をしている。	外出の機会が少ないと感じている家族がいるので、人的制約がある中ではあるが、地域や家族の協力も含めて、日常的な外出についての再検討を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本本人もちのお金はお断りしている。もっておかないと不安な方に関しては数千円程度でおねがいしている。	基本本人もちのお金はお断りしている。もっておかないと不安な方に関しては数千円程度でおねがいしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればその都度対応している。 切手やはがきも希望があれば準備している。	希望があればその都度対応している。 切手やはがきも希望があれば準備している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分や全居室は毎日掃除支援行い、清潔保持している。フローア、全居室すべて 室温・湿度管理行い、心地よく過ごしていただけるように支援している。	共有部分や全居室は毎日掃除支援行い、清潔保持している。フローア、全居室すべて 室温・湿度管理行い、心地よく過ごしていただけるように支援している。	フローアやリビングは南側を広く開けた構造で明るくて、移り変わる外の景色を楽しむことができる。ソファやテーブルが効果的に配置され、利用者はそこで思い思いにくつろいでいる。備えつけの新聞を読んだり、詰将棋をしている方もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席を変更したりして気の合う同士で出来るだけ交流ができるようにしている。	座席を変更したりして気の合う同士で出来るだけ交流ができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものや思い出のものを持参していただいている。本人や家族と相談しながら、本人が心地よく過ごせるよう工夫している。	馴染みのものや思い出のものを持参していただいている。本人や家族と相談しながら、本人が心地よく過ごせるよう工夫している。	どの居室もその方がゆっくりと落ち着いて過ごせる所になっている。馴染みの品や家具、趣味のもの等の持ち込みに特別の制約は無い。家族の写真、整理用の家具、時計、本、テレビ、主人の位牌、その他色々な物が見受けられる。持ち込みが少ない利用者には、職員がその方に合わせた居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は個々の利用者の状態にあった安全対策を施して、自立した生活を営むことができるように工夫している。	居室は個々の利用者の状態にあった安全対策を施して、自立した生活を営むことができるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○		1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない